

## 静寂のインターバル：裏磐梯の冬

冬になると木々は葉を落とし、一面雪景色となりますが、辺りの環境は荒涼としているわけではありません。オニグルミ（学名：*Juglans ailantifolia*）やハルニレ（学名：*Ulmus davidiana* var. *japonica*）などの木の枝や、リョウブ（学名：*Clethra barbinervis*）やナナカマド（学名：*Sorbus commixta*）などの低木にはつぼみが現れます。

ツキノワグマ（学名：*Ursus thibetanus japonicus*）は樹洞、洞窟、土の巣穴などに入って冬ごもりします。冬眠時期はその年の気候や山で摂れる食物量に左右されますが、通常は11月から4月までです。クマは冬眠中に代謝が低下するため、食事や排便をすることなく、蓄積された脂肪で生き延びることができます。妊娠したメスは冬眠状態中にも目を覚まし、出産や子育てを行います。

コハクチョウ（学名：*Cygnus columbianus*）は冬に裏磐梯に飛来して、餌となる湖や川の水生植物の葉や根を探し回ります。ベニヒワ（学名：*Acanthis flammea*）やオオマシコ（学名：*Carpodacus roseus*）が、白い雪や葉のない枝を背景に、赤い羽をきらめかせながら、森の中を一瞬にしてすり抜けて行くのが見られます。